

『やってみたいな！MINI生委員のすすめ』

D班

民生委員インターンシップを通じて

目的 大学生の視点から民生委員の現状及び課題を捉える
将来的に危惧される民生委員の人手不足を考える
様々な媒体を用い、民生委員の認知度向上を図る

見学先市町村 茨木市、四條畷市

主な活動内容 民生委員の会議へ同行
サロン等の運営補助
高齢者の見守り訪問 等

学んだ点①～大学生の視点から～

仕事→仕事量が多いが、その分やりがいがある
高齢者の見守りから、未就学児への支援と範囲が広い
民生委員もその地域の住民なので、密接に関われる
訪問活動において、住民も民生委員も笑顔に溢れていた
アスリートっぽい(体力がある)
大学生でも負担を感じた(→仕事内容の多さ)

無報酬でここまでするのは困難ではないか？ -やりがいが存在

学んだ点②～大学生の視点から～

やりがい→訪問活動時に民生委員も高齢者も笑顔に満ち溢れていた
民生委員同士や利用者との関わり
地域という福祉の第一線で活動している
→”民生委員”という誇り
実際に住民と関わり、支援していく過程
→「Aさんがサロンに来てくれるようになった！」

民生委員には体験してみないと分からないやりがいが存在

学んだ点③～大学生の視点から～

問題点 → 個人情報取り扱いの線引きが難しい
行政と社協との連携が円滑ではない
安否確認のジレンマ
→ なかなか会えない場合にも、入って確認出来ない

民生委員の高齢化、認知度の低さ
→ 将来的に、若い世代の直面する問題でもある

民生委員インターンシップを終えて

仕事量の過多(→負担の増加)

活動の保守性(→民生委員活動に気軽に参加不可)

高齢化(→担い手不足、活動の負担)

認知度の低さ(→担い手不足、人的資源の少なさ)

民生委員の仕事軽減と

幅広い年代が、活動に参加する機会を持ち、民生委員を知る必要性

→気軽に参加出来るボランティア活動はどうでしょうか

MIN 民生委員

MINI生委員とは？

民生委員活動に気軽に参加出来るボランティア

自由な時間に参加出来る → 幅広い年代の人を集めやすい

得意なことや、好きなことをする → 続きやすい、負担が少ない

友達と一回だけ参加でもOK → 参加しやすい環境

スタンプラリー制度の導入 → 継続に繋がる

MINI生委員の概要

対象者を**大人**と**子ども**二つの区切りを付ける(→仕事内容も区別)
(15~) (6~15)

→**大人**には、**気軽に参加**できる点を強調

子どもには、**遊び感覚で参加**できる点を強調

→子どもが民生委員の活動に参加することで、
地域が活性化する

スタンプラリー制度を用い、継続性を促す

MINI生委員導入による民生委員の利点

民生委員だけでなく、多くの人に参加 → 活動の負担軽減

様々な世代の人が参加 → その分、多様な意見を取り入れ可

MINI生委員として、子どもが参加 → 民生委員を子どもにも知ってもらう

民生委員と一緒に活動参加 → 認知度向上(活動内容等)

MINI生委員を導入することにより、多世代が民生委員に参加
仕事量の軽減、民生委員の認知度向上、次世代の担い手確保に繋がる

MINI生委員の具体的活動内容

大人向け

子育てサロン → 運営の準備、手伝い

高齢者サロン → 同上

イベント(敬老会等) → 準備、荷物の運搬等

清掃 → 各イベントの後片付け

PR活動 → 民生委員や各イベントの告知

IT系 → MINI生委員の流れにITを取り入れる

MINI生委員の具体的活動内容

子供向け

各イベントに参加する

- 子どもが参加することで、場が活性化
- 子育て中の母親なども親子で参加することができる

スタンプラリー制度の概要

MINI生委員活動に**気軽に参加**する為のツール

スタンプラリーを配布することにより、**まず民生委員を知ってもらう**

参加することにより**スタンプ**を押し、それにより**景品**を配布

スタンプラリーカードのデザイン

表面 スタンプ押印箇所 対象の活動内容の記載

裏面 民生委員の概要 連絡先

→大人用、子供用でデザイン、言い回しを変更

スタンプラリーカードの一例(大人用)

みんせいカード

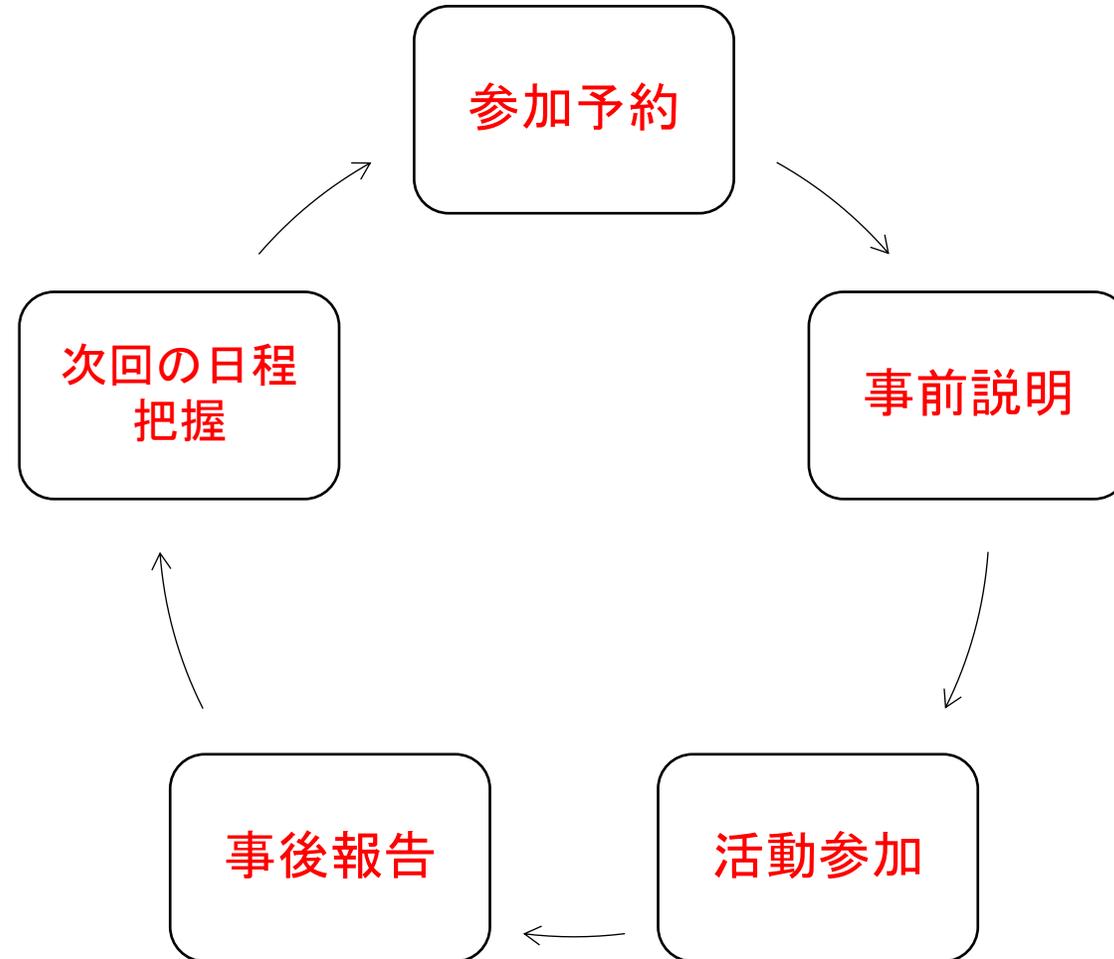
名前 _____ NO. _____

1	11/20(日)	子育てサロンの運営手伝い	(み)
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

スタンプラリーカードの一例(子ども用)



MINI生委員活動の流れ



MINI生委員活動の流れ

参加予約 参加出来そうな活動内容の日程へ参加予約をする

事前説明 マナーといった諸注意、活動内容の説明を受ける(初回のみ)

参加 実際に活動に参加する

事後報告 活動してどうだったか報告し、受けた側はフィードバック

次回の日程把握 次はどのような活動、日程かの把握
→参加出来そうな機会があれば、参加していく(→**継続性**)

MINI生委員活動の流れ

大人は、前スライドの手続きで可能だが、子どもにとっては複雑

子どもは参加すること自体が意味を持つ(→活動空間の活性化)
→参加して、「お手伝い」という形を取る

煩雑化した手続きを省略することで、気軽という印象を与える

MINI生委員告知方法

大人への配布方法 市広報紙への折り込み 街頭での呼び掛け
役所、大学と連携

子どもへの配布方法 学校との連携 地域行事へ参加時に配布

→現在、地域福祉傾向があるのでその点から連携を図る
→地域福祉に力を入れていたらイメージUPへ

MINI生委員の景品の概要

規格外野菜を景品として提供(子どもは駄菓子)

農林水産省の調査によると、2009年の食品廃棄物の総発生量は2272万トン。

そのうち食べられるにも関わらず捨てられている食品が500万～900万トンあると推計されている。

地元の農家に支援・協力をお願いする

景品の財源

- 地元の農家

地元の農家に規格外で廃棄するはずだった野菜を提供してもらおう。

農家のメリット

農業に関する意識の高揚

→地元意識が高まることによる、将来の担い手育成

参考：ふーどばんくOSAKA(まだ安全に食べることができるにも関わらずさまざまな理由で市場性を失い捨てられる食品を提供してもらい、生活困窮者に無償で提供している)

活動場所

- 堺市
- 和泉市

理由

規格外野菜を景品としてもらいやすいように、大阪府でも農業が盛んな市を選択した。

先に述べたふーどばんくOSAKAは堺市にあるため
地域として野菜を提供してもらえるルートがあると考えた

MINI生委員の運営体制

行政＋大学＋農家(JA) 産学官の共同

(十)農家が景品、大学が参加者(最初の方だけ)、
行政が場というように各役割がはっきりしている。

大学生へのアピールなど農家にもメリット大

(一)3つの連携をどうまとめていくか

→行政が主導をもって活動していく

企画の課題

- 本当に民生委員の負担軽減につながるのか
→逆に仕事を増やしてしまう可能性がある
- ボランティア数の格差
→仕事によってボランティアの人数がばらつく可能性がある
- 景品の確保
→農家が協力してくれるかは不明確

まとめ

- インターシップを通して民生委員の必要性を感じた。しかし、それと同時に活動の幅、量など負担が大きいことも感じた。やりがいは実際に経験しなければ感じるができない。そのためただ認知度を上げてても担い手不足の大幅な解消にはつながらないと考察し、仕事量や時間的拘束の軽減を目的として企画。民生委員さんの苦手な仕事を補いつつ、ボランティアにも参加しやすさをめざす。ボランティアをきっかけに次世代の担い手に繋がることを願っている。